

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 7 月 10 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程 2 年
氏 名	楊木 萌

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
マレーシア・クチン
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
55th Annual Meeting of the Association for Tropical Biology and Conservation 2018 での発表
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 6 月 27 日 ~ 平成 30 年 7 月 4 日 (8 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
55th Annual Meeting of the Association for Tropical Biology and Conservation 2018 Secretariat
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

本年で第 55 回を迎える Annual Meeting of the Association for Tropical Biology and Conservation は、毎年世界中で開催されており、東南アジアからアフリカまで各国の研究者や学生が参加する大規模な学会である。

本学会でのポスター発表を通して、様々な研究内容や研究者と出会い、意見交換を行うことで自らの知見を広げ自己の研究に生かしていくことが本出張の目的である。

初日は開会式と Key note 講演が行われた。開会式にはサラワク州首相が出席しダンスや歌が盛り込まれた盛大な催しであった。多くの研究機関があるサバ州とは異なりかつては研究者の誘致を行ってこなかったサラワク州だが、近年積極的に誘致を行っているのだと、現地の学生から聞いた。今回の催しは過去最大規模らしく、565 人の口頭発表者と 120 人のポスター発表者が参加しているとのことだった。参加者の男女比は丁度半々であり、主催者がその旨を話すと参加者は拍手喝采で答えていた。講演ではオクスフォード大学の June Mary Rubis 氏がオランウータンの保全についてお話をされていた。また、学部生の頃に留学先であるタイでインターンシップに参加したヘビ研究チームの方々に 4 年ぶりに再会できたことは感無量であった。

2 日目には自身のポスター発表を行った。ポスターの題は”Measuring habitat preferences of African elephants in Kibale National Park, Uganda”である。日本人の発表者は少なく、緊張する面もあったが、終始なごやかな雰囲気の中でポスターコアタイムが行われた。積極的に話しかけ、質問をしてくださる参加者の方も多く良い刺激となった。世界各国の様々な国からの研究者の方とお話できたことで、多方面からの意見やアドバイスを聞くことができたと感じている。

就職試験とのバッティングにより、参加できたのは短い期間であったが、ゾウをはじめとする野生動物の保全問題に取り組む多くの関係者の方々の発表を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができた。



図 1. 開会式の様子

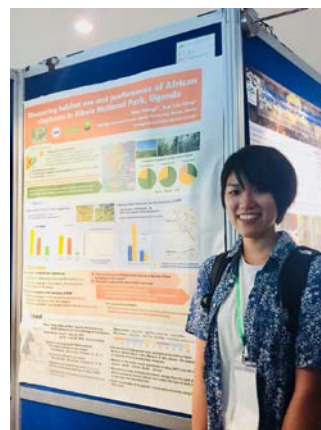


図 2. ポスター発表時の様子

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



図 3. ポスター発表会場



図 4. インターン時の同僚の方々

6. その他 (特記事項など)

本調査は PWS リーディング大学院プログラムの援助を受けて実現することができました。本渡航のために様々な手配をしてくださった皆さまに深く感謝申し上げます。